
教育総合センター

だより

NO. 141

平成 28. 9. 1



「育てる学校をめざして」

上坂部小学校

校長 増田 吉英

本校は、「笑顔あふれる上坂部小学校」をスローガンにして歩んでいます。笑顔あふれる職員室、その笑顔を教室に運び、ほめて育てることを基本にしています。小さなプラス評価の積み重ねで、子どもの自尊感情を育てたい。そして、子どもたちに「学校が好きだ」「学級が好きだ」という思いを持たせたいと考えています。

最近、大人の子どもへの接し方で気になることがあります。それは、大人が子どもの前を歩きすぎる傾向にあること。サービス業的教育、つまり、親と子が「アイドルとマネージャーの関係」の時代になってしまっていること。さらに、「転ばぬ先の杖」どころか「転ばぬ先の四輪駆動の車」であること。子どもをあまりにも守ろうとするために、成長を妨げている面が見られます。親が子どもに対してよく「かわいそう」という言葉を使うことがあります。人間は磨かれる時にも傷もつき、摩擦の熱も出ます。人はどうしようもないことに出会った時に、新しい自分を創出します。最近の子どもたちは、ぎりぎり体験が少なく、「傷つきたくない症候群」で「ストレスに対して弱い」とも言われています。

教育は、子どもが将来にわたって幸せに生き

ることをめざし、自立できるように育てていかなければならないと考えます。それゆえに、学校では子どもたちが楽しんで取り組める活動も取り入れますが、しんどいことやつらいことも乗り越えてがんばる活動も取り入れなければならないと考えています。

次に、坂本龍馬の言葉に、「世に生を得るは事を為すにあり」があります。これは、「命が生まれるのは、あの広い太平洋の中で、針一本をさがすほどの奇跡的な確率です。その尊い命を授かったのは、あなたにしかできないことがあるからです。あなたが素晴らしい力をもっているからなのです」という意味です。人としてこの世に生まれてくることは、三千億分の一の確率で奇跡的なことです。だからこそ、この奇跡的に生まれてきた命を大切に輝いてほしいものです。

最後に、これからも、「子どもたちすべてが命を大切に、友だち同士がお互いを思いやり、支え合える」、「子どもたちが、将来にわたって幸せに生きるための力をつける」ために、すべての教職員が力を合わせて取り組んでいきたいと強く思っています。

☆☆☆ シリーズ化した研修について ☆☆☆

今年度の教育総合センターでは、次期学習指導要領の方向性や課題をふまえて、研修内容の一部をシリーズ化して行っています。シリーズの講座を受講していただくことで、幅と深みのある研修を行っていきたいと考えております。

1 授業実践部会

次期学習指導要領のキーワードとなっているアクティブ・ラーニング（主体的・協働的な学習）をふまえて、授業実践部会を設けました。小学校では、国語科教育アクティブ・ラーニング部会・算数科教育アクティブ・ラーニング部会、中学校では、アクティブ・ラーニング授業実践部会となっています。この部会では1回限りの研修ではなく、年間7回から8回のシリーズ研修としています。これは、受講生が具体的な実践を通して学べる内容と構成になっています。1回目は、講師の先生からアクティブ・ラーニングについての基本的な内容を学び、2回目からは、その学びに基づいて、受講生自らが、授業設計・授業実践等を行っていきます。

1回目の受講を終えて、「自分の授業を見直すきっかけになった」、「実践的な内容だったので、体験的に学べてよかった」、「自分の授業力を磨く貴重な時間だと思っています」、「なるほどと思うことばかりでした。いつも実践しようという前向きな気持ちになります。次回もとても楽しみです」等の感想が寄せられました。

本研修を通して、受講された先生方が、アクティブ・ラーニングに対する認識を深めていただき、学んだことを、ぜひ、他の先生方にも伝えていただけたらと思っています。

2 リーダー養成研修

昨年度は、職務別研修として、主幹教諭研修・教務担当研修・研究担当研修・生徒指導担当研修・学力向上担当研修・防災安全教育研修と校務分掌に沿って、単発で研修を行っていました。

しかし、昨今の教育問題は複雑・多様化しているため、本年度は、それらの研修をリーダー養成研修として5回シリーズの研修としました。この研修では、①学校運営に寄与する人材としての資質向上を図る②学校組織力の向上や学校運営の円滑化を図るといったことに主眼を置いて、学校における様々な課題を多角的な視点からとらえる力を養ってもら

いたいと考えています。5回の研修内容は、次のようになっています。

第1回

尼崎市教育委員会事務局教育次長
西川嘉彦氏による講話

「尼崎市の教育課題を踏まえたリーダーに求められる資質について」

第2回

尾道市立土堂小学校長
佐々木智彦氏による講話及び演習

「学力向上に対する取組みについて」

第3回

尼崎市教育委員会事務局職員課管理主事
佐野正信氏による講話

「教育法規について」

第4回

大阪大学大学院教授
小野田正利氏による講話

「生徒指導・リスクマネジメントについて」

第5回

鳴門教育大学大学院教授
村川雅弘氏による講話

「校内研究の推進について」

3 小学校における英語教育の教科化に向けての外国語活動研修

昨年度から引き続き、「基本研修」に「教科化に向けての外国語活動研修Ⅰ」・「教科化に向けての外国語活動研修Ⅱ」を設けています。この研修は、平成27年度から平成29年度にかけて行います。研修Ⅰでは理論編として、英語教育の教科化を踏まえた国の動向と英語教育の考え方を学びます。また、研修Ⅱでは実践編として、ALTとの関わり方やゲーム・アクティビティの進め方等の授業実践にすぐに役立つ内容を学びます。

今年度も、市内小学校教員の1/3が受講します。また、本年度より、1年目教員研修にも外国語活動の研修を行います。



(教育総合センター総括 重信親秀)

◇◇◇「信頼」「工夫」そして「感謝」◇◇◇

今日も自転車をこぐ。そして、学校や子どもの家に向かう。

約束の時刻に来てくれるだろうか？会ってくれるだろうか？ドタキャンかも？しかし、そのような不安よりも、会える喜びの方が遙かに強い。会ってあげるのではなく、会ってもらえることが嬉しいのだ。

いつもは家まで迎えに行き、学習館や学校へ連れ出していたが、この日からは、校門で待ち合わせることにした。果たして、来てくれるだろうか？約束した時刻の5分前、まだ、来ない。当たり前だ。5分前に来れる不登校の子どもは、まず、いない。そうとわかっていても、「ひょっとして」と考えてしまう。

約束した時刻になった。やっぱり現れない。通学路が運動場のフェンス越しに見える。角から人影が現れると、目を凝らして見入る。あれは、高校生、次は、ご老人……。1分、2分……。5分経つ。時々人影が見えるが、当人ではない。前回は、待ちきれず、校門を出て、通学路を通り家に向かった。しばらく歩いて行くと、途中で出会えた。約束を守ってくれたのだ。たまらなく嬉しくて、「よう来た」「うれしい」と声に出た。

しかし、今日は、我慢である。子どもを信じて待つことに決めた。6分、7分と過ぎていく。凝視しているので、目が疲れていくのがわかったが、早く見つけたい一心であった。10分経ったが、まだ、来ない。11分、12分と。「家まで迎えに……」と考えたその時、子どもの影がフェンス越しに見えた。来た！ 約束を守ってくれた！ 心から嬉しかった。

しかし、「今日も家まで迎えに……」と考え、一時的であれ、子どもを信じなかった私自身を大いに恥じた。そして、心から「来てくれてありがとう」と言った。「よう来たな」「ありがとう」と素直に感謝の気持ちを伝えた。

別室に入り、いつものようにキャッチボール・学習・ゲーム・学習をして過ごした。これらの活動が子どもとの繋がりを深めていく。ゲームでは、決して勝負に拘っても勝ちには拘ら

ない。「今日も64歳のおっさんが負けてしまった」という言葉を私自身よく発する。また、学習では、一緒に本読みをしたり、算数も社会も理科も一緒に課題を解決したりしていく。この子どもへの寄り添いが、「次も会ってみたい」「次も学校に行ってみよう」となり、継続に繋がっていくと考える。

以上のことから、不登校の子どもと接する時に必要な事は、「信頼する事」「工夫する事」そして「感謝する事」であると考えます。私は、子どもの自主性・主体性を尊重し、子どもが考え、決め、行動するまで信じて待つようにしています。また、子どもに「次も会いたい」と思わせるような工夫をしている。さらに、子どもの頑張りには、「ありがとう」と感謝を伝えるようにしている。この三つの事で、子どもに少しずつ寄り添うことができ、学校への復帰の道が開かれていくと考える。

私が接した全ての子どもに成果があったわけではない。しかし、子どもとの繋がりが築けたことは確かである。子どもの気持ちを変えることは、非常にむずかしい。しかし、子どもとの繋がりを築くことによって、子どもが変わるための道筋を作っていくことは、確実にできる。私の活動の中心は、その道筋づくりである。

こんな言葉を思い出した。「ホームランは、ヒットの延長線上である」と。この言葉は、我々の教育活動にも当てはまるのではないかな。不登校に陥っている子どもの学校復帰への道のりは、かなり厳しく、時間もかかる。しかし、関わる者の地道な努力の積み重ねによって、道は必ず少しずつ開けていくと断言できる。

先日、大変寂しい思いをした。一年以上関わってきた子どもが、私の手から離れ、次のステップに上がったのだ。もう関われない寂しさは、かなりのものであった。こうした思いが、私の子どもと接するパワーの源なのかもしれない。

心地よい寂しさを求め、小さな新たなる目標に向かって、今日も自転車をこぐ。

(訪問指導員・元上坂部小学校長 井上和夫)

☆☆☆教育総合センターについて☆☆☆

1. 場所について

(1)旧聖トマス大跡地にあるサピエンチアタワー（住所 尼崎市若王寺2丁目18番1号）

(2)TEL及びFax TEL：6494-3155 FAX：6494-3151

(3)交通アクセス

・阪急園田駅から、約1.1kmの距離にあり、徒歩約15分

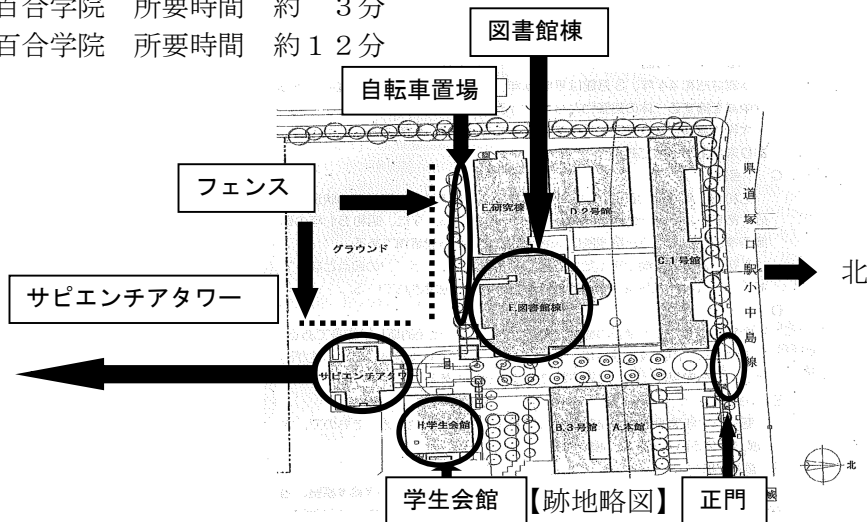
・阪神バス（11系統 阪急園田駅南側～JR尼崎駅北側）が北側道路（県道西宮豊中線）を概ね1時間に3本運行しており、百合学院前で下車

○阪急園田駅南側～百合学院 所要時間 約3分

○JR尼崎駅北側～百合学院 所要時間 約12分



【サピエンチアタワー外観】



2. サピエンチアタワー内各階の配置について

2階・・・事務室、応接室

3階・・・応接室、書庫 等

4階・・・管理室、コンピュータ研修室

5階・・・研修室

6階・・・研修室

7階・・・研修室

※8～10階は教育総合センターの管轄ではなく、トイレも含めて使用禁止になっています。

3. 駐車場・駐輪場について

(1)原則、公共交通機関・自転車・バイク等の利用をお願いしますが、暫定的な措置としてやむを得ない場合は、敷地内グラウンドへの駐車を認めます。ただし、自己責任において指定場所への駐車をお願いします。なお、台数に限りがありますので、ご了承ください。また、敷地内では、必ず徐行し、歩行者・自転車等に充分気をつけてください。

(2)車でお越しの場合は、許可証を持ってきてください。

(3)自転車・バイクは、図書館棟南側・グラウンド北側フェンスの間の通路に止めてください。

4. その他

(1)庁内メールの番号は、ト4となります。

(2)必ず1階の掲示版で研修場所の確認をお願いします。

(3)わからないことがあれば、2階事務室にお越しく下さい。

(4)開館時間は、原則午前9時より午後9時までで、午後6時から職員以外に、シルバーの職員が待機します。貸館については、ご相談ください。学生会館を使用したい場合も、ご相談ください。

5. 教育情報コーナーとフィルムライブラリーについて

教育情報コーナーとフィルムライブラリーは、旧聖トマス大学図書館棟3階北側奥に移転しました。教育資料をさがしていただくことはできますが、図書館の防火管理上、そこで閲覧することはできません。2階の閲覧室で閲覧することができます。

また、効率性を考え、教育総合センター3階の「教育情報コーナー-mini」に、新刊図書、雑誌、教科書、指導書、指導案等を置いていますので、お寄りください。少人数で学習できる「学びあいスペース」もありますので、ご利用ください。

教育資料や16ミリ映写機、フィルム等は、利用・貸出できます。

(教育情報コーナー担当：幾田 フィルムライブラリー担当：上玉利)